鬼怒川小の松風

第３号　　平成２５年６月２４日

日光市立鬼怒川小学校長　　武田　朋典

歌声の響く学舎

８時２５分から１０分間、各学級で朝の会がわれています。その中で、朝の歌が歌われています。

４月～６月は「あの青い空のように」と「日光市の歌」と「県民の歌」でした。日光市の歌は昨年度から練習を始めたこともあり、各学年ともとても大きな声でしっかり歌うことができます。また、入学式などの行事には斉唱が位置づけられていることもあり、しっかり覚えていることが歌っている姿からよく分かりました。

最近は暑い日も多くってきたこともあり各教室の窓は開いています。校舎の反対側にあるバックネットあたりを歩いてる時も、市の歌がはっきりと聞き取れほどよく響いてきす。学舎に歌声が響くということは何とも心地よいものだということを改めて感じさせてくれます。

４年生リコーダー演奏

このほか、１年に４回音楽集会計画されています。第１回目は６月６日（木）に体育館で実施され、日光市の歌を全校児童で合唱したあと、３年生と４年生がリコーダーの演奏と歌を披露してくれました。体育館中に響き渡る歌声と澄んだリコーダーの音は、まるで一服の清涼剤のようで心をなごませてくれました。

３年生リコーダー演奏

これからも、ふだんの生活の中に自然と歌があるような学校であり続けようと思います。

学校教育目標

○自分から本気で学ぶ子

○心豊かで思いやりのある子

○元気で最後までやりぬく子

平成２５年度　鬼怒川小学校　教育の重点

◇確かな学力の向上のために

○学習指導の改善に努めます

わかる授業を展開します

言語活動の充実を図ります（学校課題）

○指導体制の工夫改善に努めます

Ｔ・Ｔ（ティーム・ティーチング）による個に応じた指導の展開を図ります

○キャリア教育の充実を図ります

夢と希望をもち自主的に生活できる指導の工夫

◇豊かな心づくりのために

○児童指導の充実に努めます

望ましい生活習慣と自己指導力の育成を図ります

自己有用感を育む学級経営に努めます

○道徳教育の充実に努めます

○学業指導の充実に努めます

学びの集団づくりをめざします

話し合いでのおりあいのつけ方を深めます

◇健康な体づくりのために

○体力の向上に努めます

体育の内容を工夫し楽しさと活動量を増やします

外遊びの奨励をします

○安全指導の充実に努めます

○保健指導の徹底を図ります

○食育の充実に努めます

◇教職員の資質の向上のために

○校内での研修を充実させます

指導法の改善に取り組み磨きあう・高め合う教師集団をめざします

○働き甲斐のある職場づくりに努めます

明るく意見を言いやすい職場環境を実現します

◇特別支援教育の充実のために

○指導の充実に努めます

一人ひとりのニーズに対応できる指導法の追究

個別の指導計画を立てよりよい指導を推進します

○校内指導体制を工夫したり改善したりします

◇開かれた学校づくりのために

○地域の教育力を学校に積極的に取り入れます

学習ボランティアの皆さんの力をかりて、わかりやすく楽しい授業の実践に努めます

幼稚園、保育園、中学校との結びつきを考え、系統性や連続性を重視します

○双方向の情報交換に努めます

学校だより、学年だより、鬼怒小ホームページ、懇談会等を通して、お互いの意見を交換し学校教育の充実に反映させるようにします

ふ れ あ い 活 動（6 月 14 日）

県民の日記念行事として６月１４日(金)に、ふれあい活動を実施しました。地域の協力者２０名を講師として迎え、竹とんぼ・ベーゴマ・竹馬・けん玉・おはじき・めんこ・あやとり・折り紙・お手玉などの昔の遊びを体験しました。

当日は、嬉しいことに交流をしている三依小学校から６名の児童が参加してくれ、鬼怒小の児童たちといっしょに活動してくれました。

県民の歌斉唱や吹奏楽部の歓迎演奏で始まった活動は、縦割り班に分かれていろいろな種目を体験できるようになっています。慣れるまでは手ずっていましたが、講師の皆さんの的確な助言で少しずつ上達していきました。

『竹　馬』
バランスに気を配りながら楽しみました。

『竹とんぼ』
上手に回転を伝えられると、驚くほど高舞い上がりました。

ここで、ある先生の書いてくれた「きぬっこふれあい活動」の感想を紹介します。

ふれあい活動では、体育館において「竹とんぼ」の係であったが、どの班も６年生のリードのもと礼儀正しく、また楽しく活動していたと思う。

素朴な遊びの中で工夫を凝らしルールを決めて楽しむ姿に、**縦割り班**（＊）のよさと机上の学習では得られない生活の知恵を得る大切さを感じた。また、参加してくださった地域の方々も、とても楽しいとおっしゃってくださり、世代を超えた交流や地域との交流は子どもの健全育成には欠かせないものと改めて思った。

〇ご指導下さった皆様に感謝いたします

＊縦割り班・・・１年生から６年生まですべての学年が混じり合い、６年生をリーダーとする活動班のこと。

お耳を拝借

Ｎｏ３

自己有用感　（じこゆうようかん）

自分は価値のある存在だという実感がもてたり、自分は役に立つ行動をしているという状況が生まれたりする。また、自分の行動や存在が周囲から認められることはすばらしいことです。

このような体験をした子どもたちは、きっと自分に自信をもっていきいきと生活ができるようになると思います。本校でも、さまざまな行事を通して自己有用感を高めていることは、「お耳を拝借Ｎｏ２」で紹介しました。

今回のＮｏ３では、家庭において自己有用感を高める大切な事について書きます。

家庭で自己有用感を高めるには、お子さんとのさまざまな「関わり」を大切にすることだといわれます。

その１・・・我が子に関心をもち、我が子の話をじっくり聴く。

その２・・・家事を分担し、責任を果たさせ達成感を味わわせる。（助かったことを大いにほめる）

その３・・・我が子のよい面を認め、ほめてほしいと思っていることをほめるようにする。

アンケート調査によると、中学生や高校生になっても家族からほめられている子どもは自己有用感が高いそうです。我が子と積極的に関わることで自己有用感が育まれ、自信をもっていきいきと生活ができるようになる。これは、とてもすばらしいことだと思います。

余談になりますが、研修会に参加した先生は内容を報告してくれます。その中に、「まずは、あなたと会えて楽しい、嬉しい、そういう気持ちを持ちながら楽しく話してみる」という一文がありました。こんな気持ちで我が子、いや誰にでも接することができたらと改めて思いました。